

== 宇電懇ニュース No.109 ==

2003年8月30日

宇電懇事務局（東京大学・理・天文センター）発行

宇電懇ニュース No.109 をお届けします。

なかなか明けない梅雨が終わったら台風・大雨で、もう秋かと思いきや、ちゃんと暑い夏がやってきました。諸般の事情から、今回、またも選挙関連の宇電懇ニュースとなりましたが、よろしくご協力下さい。

目次

	ページ
I. 電波科学研連委員会選考委員会の結果	1
II. 電波科学研連委員会 J 分科会委員推薦者選出選挙の実施.....	2
III. 宇電懇ニュース電子版移行について.....	2
IV. 宇電懇内部規則明文化について	3
V. 宇電懇総会について.....	4
VI. 宇電懇シンポジウムのお知らせ	5
電波科学研連委員会 J 分科会委員推薦者選出用投票用紙.....	7

I. 電波科学研連委員会選考委員会の結果

井上 允（国立天文台・電波科学研連委員）

19期電波研連委員が、8月4日に開催された電波科学研連委員会選考委員会で審議され、決定されました。学会会議の改革にともなって、各研究連絡委員会は廃止され、連携会員制度に移行する予定です。連携会員数は、学会会議全体で 2400 人程度、現在の各研究連絡委員数とほぼ同じになるようです。因に正「会員数は 200-300 名で科学的業績等に基づき現会員が選出（co-optation）する。」とされています（「」内は8月4日電波研連会議西田篤弘学会議会員資料による）。

電波研連委員長は松本紘氏、同幹事：小林一哉（B分科）多氣昌生（K分科）大村善治（H分科）の各氏、各分科会の委員長と委員は、

A分科会：森川容雄（通総研）小宮山耕司（産総研）

B分科会：安藤真（東京工大）立居場光生（九大）小林一哉（中央大）

C分科会：大平孝（ATR）赤池正巳（東京理科大）水野皓司（東北大）

D分科会：井筒雅之（通総研）土屋昌弘（東大）

E分科会：藤原修（名工大）杉浦行（東北大）

F分科会：井原俊夫（関東学院大）唐沢好男（電通大）

G分科会：丸山隆（通総研）山本衛（京大）

H分科会：岡田敏美（富山県立大）大村善治（京大）

J分科会：井上允（国立天文台）春日隆（法政大）

K分科会：多氣昌生（都立大） 重光司（電力中研）
です（最初が委員長、敬称略）。

B分科会の小林氏は幹事として1名追加で承認され、残り定員1名を、他の分科会から選出する事になりました。J分科は他の分科会から、分科会構成員が多い事と分科会委員も熱心に仕事をやっているのと推薦がありましたが、一方C分科会を推薦する声もあり、2者で投票の結果1票差で惜敗しました。残念で、申し訳ありません。

8月6日時点ではまだ改定されていませんが、電波研連のHP <http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/ursi/>にメンバーその他が掲載されますので、ご覧下さい。

II.電波科学研連委員会 J分科会委員推薦者選出選挙の実施

日本学術会議電波科学研究連絡委員会(電波研連)は、国際電波科学連合(URSI)との連携をとりながら電波科学の推進をはかることを目的とする日本電波科学者の代表窓口となる組織です。電波研連にはURSI分科会に対応する10の分科会がありますが、その中で電波文学分野について、国内での研究連絡・研究推進活動をURSIと連携をとりながら行うための分科会がJ分科会です。J分科会委員の通常の活動内容は、電波天文研究に関わる諸報告の連絡窓口としての役割となります。

このたび、このJ分科会の委員の改選時期となりました。各分科会のメンバーにつきましては、「関係分野の研究者から広く意見を徴収する」ことで20名程度を選定するよう規定されており、J分科会に関しては宇電懇事務局がその取りまとめを行っています。

このたび事務局を中心に検討し、基本的な候補者を宇電懇会員より選挙により選出し、地域や所属機関のバランスを配慮した上で宇電懇運営委員会にて決定することと致しました。

お手数ですが、同封の投票用紙をご利用の上、9月17日必着で宇電懇事務局まで郵便投票をお願いします。

J分科会委員候補者選挙要領

選挙権者：宇電懇会員

被選挙権者：電波天文学研究者（宇電懇会員に限らない）

連記：20名以内

締切：9月17日(水)事務局必着

郵送先：181-0015 東京都三鷹市大沢2-21-1 東京大学天文センター 宇電懇事務局

投票上の注意：投票用紙は本ニュースの最後のページにあります。なお、宇電懇事務局の角印がないものは無効となりますのでご注意ください。

内封筒（薄い方）に投票用紙を入れて封をし、さらに外封筒に入れて、宇電懇事務局に郵送などにより送付してください。

III.宇電懇ニュース電子版移行について

宇電懇ニュースや野辺山ユーザーズミーティングなどで何度かお知らせしていますが、宇電懇ニュースの電子版への移行を実行したいと考えています。宇電懇ニュースNo.104掲載の宇電懇総会報告でも「基本的に媒体は電子メール(ryunet)とし、必要に応じて迅速に発行する」との記述があり、今回、再度の移行表明に対しても、今のところ、強い反対意見はありませんので、体制が整い次第、以下のような発行形態に移行しよう

と思います。

(1)選挙投票など(選挙)権保持確認と匿名性が共に必要な場合は、原則として従来通り郵送とする。

(2)ryunet 参加者には電子版のみを配信する。非参加者には個人宛で従来通り郵送する。

(3)電子版を宇電懇 web ページにてアーカイブする。(ただし、会員名簿など個人情報に関する部分は削除する)

IV.宇電懇内部規則明文化について

宇電懇ニュースや宇電懇総会、野辺山ユーザーズミーティングなどでお知らせしましたように、宇電懇の内部運営について明記された文章が散逸してしまい、いくつかの事例が発生した場合の対応に苦慮した経験から、宇電懇の具体的な運用や選挙に関する規定を改めて明文化する作業を運営委員会で行っていました。

電子メールによる持ち回り議論の結果、以下の2つの規則を制定しました。調べが着く限り、基本的にこれまでの慣例や伝承に従って制定しており、今年中に発効する予定です。特に強い異論がある場合は、運営委員ないしは事務局まで御連絡下さい。

なお、理解を早めて頂くために、今回は、規定本文の他に、その背景解説文も添えます。

「宇宙電波懇談会運営委員選出規定」

第1条：宇宙電波懇談会（以下、宇電懇）運営委員および運営委員長（以下、委員および委員長）の選出は以下に規定される選挙によって行う。

第2条：委員および委員長に対する選挙権・被選挙権は、宇電懇会員であり、かつ、次期委員任期開始の4ヶ月前の月初日の時点での宇電懇会員とする。

第3条：選挙は会員による互選とする。

第4条：委員および委員長の任期は、西暦偶数年の10月1日から2年間とする。再任はこれを妨げない。

第5条：委員長は1名とし、委員の定員は9名とする。委員の定員には委員長を含まない。

第6条：選挙は、次期委員任期開始の2ヶ月前までに実施し、郵便による無記名投票とする。選挙管理は事務局が行う。

第7条：開票は少なくとも1名の現運営委員の立ち会いのもと、事務局が行う。

第8条：委員の選出投票と委員長の選出投票とは独立して行う。委員長としての得票が最も多い者1名を委員長として選出し、委員長として選出された1名を除いた中から、委員としての得票が多い順に9名を選出する。

第9条：委員長および委員で当落線上の同数票が複数あった場合には、同数得票者の中から現委員長および現委員を除いた候補者から、定員を過不足無く満たすように選出する。同数票者からの選出は、開票担当者が抽選によって決定する。

第10条：委員は選挙結果をもとに開票直後の宇電懇総会にて正式に決定する。

第11条：委員の中から副委員長を選出することができる。選出は運営委員による互選とする。

第12条：本選出規定の改訂は、運営委員会および総会での議決を必要とする。

解説)

*この条文は、選挙規定として明文化された記録がなく、今回の選挙に際して、一部混乱が生じたために作成したものである。したがって、極力、慣例的に行われている方法を踏襲するようにした。選挙方法などを変更することが目的ではない。

*今回発生した混乱は、上記案、第9条に対応する規定が不明になっていたためである。

- * 第2条は、投票用紙の発送など事務手続きの関係から、一定期間の余裕を持って会員であることを必要とするため。また、投票時までには退会した人には投票権を与えるべきではないため。
- * 第3条は、公職選挙のように立候補を募るわけではないことを明示するため。
- * 第9条では、再任が少しでも起き難いようにするための仕掛けとした。最終決定を抽選としたのは、作為をくわえずという意味。
- * 第11条に関しては、前任期(2000/10-2002/9)では副委員長が置かれていたが、そのさらに前(1998/10-2000/10)も現在(2002/10-2004/9)も副委員長は置かれていないためにこのような規定とした。
- * 第11条に関しては、これまでの副委員長の選出方法が不明なため、委員互選とした。
- * 選挙規定というよりは、宇電懇運営委員会規定とした方がよい条文も含まれている。(例えば、第4条、第5条など。)運営委員会規定は特に定められていないようなので、ここに含めた。委員会規定も明文化する必要があるならば、その後、対応する条文を廃止・修正する必要があるだろう。

宇宙電波懇談会事務局規定

第1条：宇宙電波懇談会（以下、宇電懇）には事務局を置く。

第2条：

(1)事務局は宇電懇会員の入退会の処理など宇電懇運営に関連する事務、会員に対する広報および会計管理を行う。

(2)事務局は宇電懇シンポジウムの開催に関連した事務を行う。

第3条：事務局の担当期間は、西暦偶数年4月1日から2年間とする。

第4条：事務局は、原則として研究活動の根拠地が地理的に近接した、複数の宇電懇会員からなる1つのグループが担当する。

第5条：次期事務局は、担当期間の開始より3ヶ月以上前に、その時点での運営委員長が決定する。次期事務局は、担当期間開始前までに現事務局によって会員に告知される。

第6条：本規定の改訂は、運営委員会および総会での議決を必要とする。

解説)

- * この条文は、事務局規定として明文化された記録がなく、事務局引継時期などに関して一部不都合が生じたため、作成したものである。したがって、極力、慣例的に行われている方法を踏襲するようにした。宇電懇組織を改変することが目的ではない。
- * 選挙規定というよりは、宇電懇会規定とした方がよい条文も含まれている。(例えば、第1条など。)会規定は特に定められていないようなので、ここに含めた。会規定も明文化する必要があるならば、その後、対応する条文を廃止・修正する必要があるだろう。
- * 第5条では、実際上は、現事務局による交渉・内諾で進めることを想定しているが、条文としての規定を考え、形式的に「運営委員長の指名」とした。

V.宇電懇総会について

今回の宇電懇総会は、日本天文学会春季年会会場(2004年3月22日~24日、名古屋大学)にて開催することとなった。なお、松山での日本天文学会秋季年会会場では宇電懇運営委員会が開かれる予定である。

VI. 宇電懇シンポジウムのお知らせ

本年度の宇電懇シンポのプログラムが、ほぼ確定しましたのでお知らせします。今回は、NRO ワークショップとの合同とし、以下の内容で3日間行います。

平成 15 年度 NRO ワークショップ/宇電懇シンポ 「ALMA 時代のサイエンスと研究推進体制」

日時：2003 年 9 月 9 日 13:00 - 9 月 11 日 17:30

場所：国立天文台(三鷹) 解析研究棟大セミナー室

プログラム(案)：

9 月 9 日(火) 午後

13:00 - 13:05 世話人あいさつ (百瀬宗武：茨城大)

13:05 - 13:30 ALMA の状況と日本参加の近況報告 (川辺良平：国立天文台)

13:30 - 14:00 部分運用から本運用へ (長谷川哲夫：国立天文台)

14:00 - 14:20 質疑応答 (司会 阪本成一：国立天文台)

14:20 - 14:30 ポスター紹介 (西尾正則：鹿児島大、服部誠：東北大×2)

14:30 - 14:50 休憩

14:50 - 15:20 原始惑星系円盤の進化：微惑星形成までの道のり (中本泰史：筑波大)

15:20 - 15:50 原始惑星系円盤の電波観測 (北村良実：宇宙科学研究所)

15:50 - 16:20 すばると原始惑星系円盤 (深川美里：東京大)

16:20 - 16:50 Astro-F による原始惑星系円盤サーベイと ALMA (上野宗孝：東京大)

16:50 - 17:10 惑星科学 / 原始惑星系円盤 (関口朋彦：国立天文台)

9 月 10 日(水) 午前

09:30 - 10:00 低質量星形成について (百瀬宗武：茨城大)

10:00 - 10:25 ALMA による大質量星形成過程の解明 (酒井剛：東京大)

10:25 - 10:55 SNR - 分子雲相互作用の探査・シェルの微細構造と高エネルギー粒子加速 (森口義明：名古屋大)

10:55 - 11:15 星間化学の研究動向 (山本智：東京大)

11:15 - 11:35 星間物質の構造と進化 (阪本成一：国立天文台)

11:35 - 12:00 系内まとめの議論 (司会 百瀬宗武：茨城大)

9 月 10 日(水) 午後

13:00 - 13:30 ALMA で探るマゼラン雲 (福井康雄：名古屋大)

13:30 - 13:55 銀河の円盤部における星形成 (久野成夫：国立天文台)

13:55 - 14:10 GMCs in spiral arms and interarm of galaxies (濤崎智佳：ぐんま天文台)

14:10 - 14:40 近傍銀河、銀河団銀河 (祖父江義明：東京大)

14:40 - 15:00 休憩

15:00 - 15:30 AGN の観測 (河野孝太郎：東京大)

15:30 - 15:55 ALMA と X 線で探る活動的銀河核 (寺島雄一：宇宙科学研究所)

15:55 - 16:10 活動銀河核の質量降着過程とジェットの根元 (亀野誠二：国立天文台)

16:10 - 16:25 活動銀河核の降着円盤からの放射電波 (土居明広：東京大)

16:20 - 16:50 ALMA と銀河団研究 (服部誠：東北大)

16:50 - 17:30 系外まとめの議論 (司会 河野孝太郎：東京大)

18:00 - 20:00 懇親会 (講義室) スタッフ 2000 円、学生 1000 円程度を予定

9月11日(木) 午前

09:30 - 10:00 Observation of Dusty Galaxies at High Redshift: Toward the Dawn of Dust in the Universe
(竹内努：国立天文台)

10:00 - 10:30 Dusty SED Diagnostics for High-z Submm Galaxies and EROs (花見仁史：岩手大)

10:30 - 10:55 高赤方偏移銀河の内部構造と ALMA：すばるからの挑戦 (松田有一：東京大)

10:55 - 11:10 ショートトーク (太田耕司：京大)

11:10 - 11:40 宇宙初期天体形成と ALMA (西亮一：新潟大)

11:40 - 12:00 宇宙論まとめの議論

9月11日(木) 午後

13:00 - 14:40 SMA session

14:40 - 15:00 休憩

15:00 - 15:20 日本電網天文台(JVO)の概要 (大石雅寿：国立天文台)

15:20 - 15:35 JVO と ALMA の地域サポートセンター(RSC) (立松健一：国立天文台)

15:35 - 15:50 法人化後の国立天文台、電波研究系 (近田義広：国立天文台)

15:50 - 16:10 45m の今後 (砂田和良：国立天文台)

16:10 - 16:30 スペース VLBI 計画と ALMA (村田泰宏：宇宙科学研究所)

16:50 - 15:50 その他の装置：2010 年に何がそろっているか？

16:45 - 17:30 総合討論 (司会 長谷川哲夫：国立天文台)

宇宙電波懇談会事務局

〒181-0015 東京都三鷹市大沢 2-21-1

東京大学大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター

祖父江義明(Tel:0422-24-5026, FAX:0422-34-5041, e-mail sofue@ioa.s.u-tokyo.ac.jp)

河野孝太郎(Tel:0422-34-5039, FAX:0422-34-5041, e-mail kkohono@ioa.s.u-tokyo.ac.jp)

半田利弘(Tel:0422-34-5062, FAX:0422-34-5041, e-mail handa@ioa.s.u-tokyo.ac.jp)

宇電懇インターネットホームページ <http://www.nro.nao.ac.jp/udenkon/>

